

コンテンツを利用した地域コミュニティづくり

研究キーワード



- 社会教育・生涯教育
公共図書館及び地域コミュニティにおけるワークショップ
- 地域づくり
古典文学、絵本、新聞など身近なコンテンツを介在させたコミュニティづくり

連携アピール



- 公共図書館の館長として図書館を取り巻くステークホルダーとともに地域住民の集う場づくりを実践している。その自治体や近隣の高齢者向けに古典文学・地域資料の音読、アニメーションやビブリオバトルなどを通し、本を読む楽しさ、仲間づくり、それらの効用で免疫力を上げ、健康長寿を目指すワークショップを開催している。特に音読は簡単にできる認知機能の改善方法のひとつとして薦めている。

本研究の概要

- 本取り組みの概要は、高齢化社会の課題となっている認知機能の改善へとつながる「音読の効果」を身近なコンテンツである絵本、古典文学や図書館所蔵の地域資料などを題材に音読することで脳のトレーニング、筋肉のトレーニングへとつなげ、無理なく、日常生活に取り入れられる健康長寿の方法を提案するものである。
- 自治体が主催する60歳以上の市民向け「シルバーカレッジ」などで、身近な新聞を使ったゲーム、古典文学・絵本を使った音読やアニメーション、ビブリオバトルなどを組み合わせて楽しみながら頭と身体を使って健康長寿を目指すワークショップを企画運営。
- 音読の魅力に加え、介護予防指導士とともにオリジナルな運動やコミュニケーションゲームも取り入れたワークショップは、地域とともに健康に暮らすための提案型講座として新型コロナウイルス感染症の影響下においても、それぞれのコミュニティでの参加者は延700人を超える。



研究者



千邑 淳子 (ちむら じゅんこ)
文学部国文学科 准教授

